

## 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

### 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	歴史文化課	
施策	11	歴史・文化の継承	評価 責任者	割船 活彦	内線 7350
小施策	11-1	文化財の保護と活用	評価 シート 作成者	畠山 俊明	内線 7351

### 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市内に所在する有形文化財や天然記念物などは、後世に引き継いでいくため、収集、記録保存及び周辺環境を含めた維持管理に努める必要がある。また、地域に受け継がれている有形民俗などの文化財については、市民の歴史学習や地域学習のほか、世代間交流やまちの活性化のため幅広い活用を図る必要がある。無形民俗文化財は、伝承基盤が確立している保存団体がある一方で、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、保存団体の特性に応じた対策が求められている。遺跡などの埋蔵文化財については、各種の開発事業との調整を図るとともに、出土した埋蔵文化財の適切な管理や保存、調査を進め、その成果の公開に努める必要がある。	文化財指定の有無にかかわらず、有形文化財や無形文化財、民俗文化財、記念物、埋蔵文化財などの保護を適切に進めるとともに、市民がより歴史や文化に興味を持てるように、文化財の幅広い活用を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民 文化財	地域の貴重な文化財を知るとともに、次世代に伝えるようになる。 適切に保護される。

### 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	今後の方向性(令和3年度以降)
指標① 文化財数(国、県、市指定)	件	↗	・市指定の文化財数が、1件増えた。 ・指定となっている有形・無形の文化財等を存続できた。	・補助金による支援等で、関係者の自主的な活動が促進され、文化財の保護が図られた。 ・有形のもの 管理費補助(補助対象者数57者 延べ91件) ・無形のもの 活動支援補助対象 盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会(構成活動団体数46団体)	<b>評価を踏まえた取組の方向性</b> ★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討  ★ 有形文化財等の保存・修繕のため、町内会等地元住民への協力要請を行うとともに、必要に応じて、支援や助言を行うものとする。  ★ 盛岡市歴史的風致維持向上計画等に基づき、補助制度を活用しながら、文化財の保護と活用に取り組む。  ★ 民俗芸能保持団体の後継者不足について、盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会と連携しながら支援策を講じる。また、民俗芸能を紹介するPR動画を制作し、youtubeやSNS等により、踊りの魅力を全世界に向け発信するほか、地域における行事等を捉えて、発表の機会を確保し、民俗芸能の周知を図る。  ★ 埋蔵文化財発掘の出土資料を、活用頻度等により再配置を行うとともに、空き教室等を利用するなど、収蔵場所の確保を図る。  ☆1 令和3年度の文化財保存活用地域計画の策定を予定し、2年度の事前評価を受けたが、計画策定の緊急性等の観点から事業実施は見送りとなった。今後は、未指定の文化財も含め、文化財をまちづくりに生かしつつ、地域社会との協働でその承継にどのように取組むか等、当該計画の策定に向けた協議・検討・調査を進める。 ☆2 通常の管理では維持が困難となっている指定文化財については、適切な保存や再生を目指した取組を進める必要がある。
当初値 (H25) 270	R1目標値 276	R6目標値 281	問題点	問題の要因分析	
			・有形の文化財等は、周辺の環境も含め、適切な保存・修繕が難しくなっているものもある。 ・無形民俗文化財は、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、民俗芸能保持団体の特性に応じた対策が必要となっている。 ・埋蔵文化財の出土資料は、増え続け、従来の施設には収まり切れず、仮設の施設にも仮置きしている状況である。	・有形文化財等の保存・修繕にかかる資金(財源)、人材の確保が難しい状況となっている。 ・無形民俗文化財は、人口減少、少子高齢化の進行が顕著な地域ほど、民俗芸能保持団体の後継者の確保が難しい状況になっている。 ・埋蔵文化財の出土資料の整理が十分でない。収蔵場所が不足している。	
指標② 盛岡市自然環境及び歴史的環境保全条例及び景観法に基づく、市保存建造物等(景観重要建造物21件・保存建造物1件・計22件に訂正(訂正前23件))	件	→	・保存建造物等を観覧する機会を設けることができた。 ・保存建造物等の維持保全を図り、前年に引き続き存続できた。	・市所有の保存建造物の公開を行うことにより、観覧機会を設けた。 ・民間所有の保存建造物修復事業に対し、支援を行うとともに、市所有の保存建造物の修繕を行ったことが、健全な維持保全につながった。	
当初値 (H25) 22	R1目標値 22	R6目標値 22	問題点	問題の要因分析	
			・保存建造物等の老朽化の改善のための、計画的な改修の取組が必要となっているが、対応が難しい状況である。	・改修費用を確保することが、困難となっているため。	

## 【小施策改革改善/令和4年度取組案(強化・縮減)】

「評価を踏まえた取組の方向性」に基づく小施策構成事業の検討 ※検討した内容は、事務事業事前評価や予算要求等に活用してください。

強化を検討する事業					縮減を検討する事業				
指標番号	☆番号	主要/一般	事業名	今後の方向性(拡充・新規・その他)	指標番号	☆番号	主要/一般	事業名	今後の方向性(縮小・廃止・統合・その他)
①	1	一般	文化財保存活用地域計画策定事業	新規 これまで価値付けが明確でなかった未指定の文化財や、文化財と関連する周辺環境等が失われつつあることから、国の支援措置等を活用しながら、歴史資産の保存や利活用を推進させる必要があるため、「文化財保存活用地域計画」の策定に取組む。					
②	2	一般	県指定天然記念物山岸のカキツバタ群落再生事業	拡充 盛岡市の花となっているカキツバタ群落については、地元保存会が維持管理に取り組んできたが、ヨシ等の雑草が繁茂し、通常の作業では群落を維持することが困難となっていることから、群落の再生を目的とした事業に取り組むもの。					

## 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

### 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	歴史文化課	
施策	11	歴史・文化の継承	評価 責任者	割船 活彦	内線 7350
小施策	11-2	博物館等施設の整備・充実	評価 シート 作成者	畠山 俊明	内線 7351

### 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
博物館等施設は、その適切な管理運営と計画的な保全、整備に努める必要がある。		各施設の老朽化対策を進め、必要な施設整備を行う。また、各施設では、その施設の特色を生かした事業を展開し、市民へ学習機会を提供し、歴史や文化に対する理解が深まるような運営を行う。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民等 博物館施設		市民等が地域の歴史や文化を知る。 魅力的で快適な施設環境になる。

### 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移					実績の評価																										
					成果点	⇒	成果の要因分析																								
指標① 博物館施設入館者数		単 位	目指す方向																												
		人	↗																												
当初値 (H25)	360,816	R1目標値	361,937	R6目標値	363,437																										
<table border="1"> <caption>入館者数推移表</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>当初値 (H25)</td><td>360,816</td></tr> <tr><td>H27</td><td>407,707</td></tr> <tr><td>H28</td><td>416,327</td></tr> <tr><td>H29</td><td>391,456</td></tr> <tr><td>H30</td><td>397,000</td></tr> <tr><td>R1</td><td>372,542</td></tr> <tr><td>R2</td><td>140,698</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td></tr> <tr><td>R4</td><td></td></tr> <tr><td>R5</td><td></td></tr> <tr><td>R6</td><td></td></tr> </tbody> </table>					年度	入館者数	当初値 (H25)	360,816	H27	407,707	H28	416,327	H29	391,456	H30	397,000	R1	372,542	R2	140,698	R3		R4		R5		R6				
年度	入館者数																														
当初値 (H25)	360,816																														
H27	407,707																														
H28	416,327																														
H29	391,456																														
H30	397,000																														
R1	372,542																														
R2	140,698																														
R3																															
R4																															
R5																															
R6																															
<p>・新型コロナウイルス感染症の影響から、9施設の殆どの施設で入館者数が例年の半数以下となるなか、各館で手洗い、消毒、検温の徹底等、感染症対策の徹底を図りながら、館のPR活動に取組んだ。</p> <p>・都南歴史民俗資料館は、地域密着型の施設であり、観光客よりも地元の方の来館が多い。そのため、小学生等の団体客は減少したが、コロナの影響で遠出できないなか、近場の施設が選ばれたと考えられる。</p>																															
<p>・9施設全てで、入館者数が減少し、入館者総数が例年の約65%減となった。</p> <p>・原敬記念館や遺跡の学び館で空調設備が機能していないことや、石川啄木記念館でトイレ動線がバリアフリーとなっていないことなど、施設の設備、老朽化が進み、修繕対応が追いつかず、来館者の受け入れ環境が改善できない箇所がある。</p> <p>・原敬記念館や石川啄木記念館等の施設敷地に空洞化した樹木が存在しており、倒木の危険性があるが、施設の配置や事業費の関係から伐採等の対応が難しい。</p>																															
						⇒	問題の要因分析																								

### 今後の方向性(令和3年度以降)

<p>評価を踏まえた取組の方向性</p> <p>★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討</p> <p>★ 各種企画展をはじめ、魅力的で話題性を捉えたイベントの開催のほか、各施設の情報案内、広報の強化を図るとともに、施設外へ出向く「出前講座」の充実に取り組む。</p> <p>★ 学校と連携し、教育課程や子どもの郊外活動のニーズを踏まえながら、利用促進を図る。</p> <p>★ 他団体のイベント等と連携するなど、機会を捉えて幅広くPR活動を行い施設への誘導を図る。</p> <p>★ 玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館の複合施設等の整備を進める。</p> <p>★ 施設や設備の修繕、樹木の剪定・伐採等については、優先順位を検討し、予算要求していく。</p> <p>☆1 「文化財保存活用地域計画」や「地域における文化観光の推進に関する法律」における地域計画等の策定に向け、博物館等施設での保存・活用のあり方も検討していく。</p> <p>☆2 石川啄木記念館・玉山歴史民俗資料館の整備にあたり、施設の文化的景観を確保する必要から、中庭の確保に取り組む。また、来館者の利便性を図るため、施設のバリアフリー化を進めるとともに、隣接する道の駅との連絡路を整備する必要がある。</p> <p>☆3 博物館施設敷地に生育する空洞化した樹木について、施設と来館者の安全確保の観点から、適宜伐採を進める必要がある。</p> <p>☆4 志波城古代公園の復元建造物の腐朽が進行しており、施設によっては破損の恐れがあり、見学に支障をきたしているため、破損部分を特定しながら、利活用に支障となる範囲の修復方法、計画を検討する必要がある。</p>
---

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	文化国際課	
施策	12	芸術文化の振興	評価 責任者	猿舘 賢治	内線 3710
小施策	12-1	芸術・文化活動の充実	評価 シート 作成者	箱崎 孝幸	内線 3716

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・市民の価値観が多様化していることから、コンサートや演劇、美術展などの芸術鑑賞事業や各種講座など、芸術文化に親しむ機会を提供する事業については、市民ニーズの把握に努めるとともに、それぞれの文化会館の特色を生かしながら、魅力ある事業展開を図る必要がある。 ・芸術文化活動の振興を図るため、活動発表の機会を設けているほか、優れた公演や事業などに対して共催や後援を行い支援しているが、市民の自主的な活動を促進するため、更に効果的な支援、育成に取り組む必要がある。	・優れた芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、市民自らが表現する場や芸術団体が相互に交流する場の創設と芸術文化団体の活動を支援する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民、芸術・文化に関わる人・団体	芸術・文化活動に参加できる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	問題点	成果の要因分析
指標① 芸術文化事業鑑賞者数	人	↗	当初値 (H25) 28,372   R1目標値 29,500   R6目標値 31,000	・事業実施主体の盛岡市文化振興事業団が設定する参加者満足度の目標値90%に対して、実績が97.2%となり、目標値を大きく上回った。	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、鑑賞事業数は減少したが、その中でも、ある程度市民ニーズに応えた事業展開による結果、目標を超えることができた。
			・前年度に比べて25,170人減少した。 ・急激な減少により当初値を下回った。	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い10件の事業が中止及び延期となったため。  ・どのような事業が求められているか、文化会館利用者だけでなく、社会情勢等も含め広く市民のニーズを把握し、事業を計画する必要がある。	
指標② 文化会館活動参加者数	人	↗	当初値 (H25) 10,741   R1目標値 10,900   R6目標値 11,800	・事業実施主体の盛岡市文化振興事業団が設定する参加者満足度の目標値90%に対して、実績が94.6%となり、目標値を上回った。	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、活動事業数は減少したが、どのような事業が求められているか、文化会館利用者アンケートなどによる意見を反映するなど、事業の質を高めた結果、参加者の満足度向上に繋がった。
			・参加者数が前年度に比べて5,678人減少した。	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、26件の事業が中止となったため。  ・どのような事業が求められているか、文化会館利用者だけでなく、社会情勢等も含め広く市民のニーズを把握する必要がある。	
指標③ 盛岡芸術祭参加者数	団体	↗	当初値 (H25) 11,453   R1目標値 11,500   R6目標値 12,000	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止を踏まえ、令和2年度第49回盛岡芸術祭が中止となった。	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止によるため。

## 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づき事業に着手する。</li> <li>★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づく効果的な事業展開について、指定管理者、芸術文化関係者等との意見交換を行い、年度別実施計画の策定について検討する。</li> <li>★ 推進計画及び実施計画に基づき、PDCAサイクルにより目標達成に向けた事業を進めていく。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づき事業に着手する。</li> <li>★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づく効果的な事業展開について、指定管理者、芸術文化関係者等との意見交換を行い、年度別実施計画の策定について検討する。</li> <li>★ 推進計画及び実施計画に基づき、PDCAサイクルにより目標達成に向けた事業を進めていく。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づき事業に着手する。</li> <li>★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づく効果的な事業展開について、指定管理者、芸術文化関係者等との意見交換を行い、年度別実施計画の策定について検討する。</li> <li>★ 推進計画及び実施計画に基づき、芸術文化関係団体と連携して事業を進めていく。</li> </ul>	

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	文化国際課	
施策	12	芸術文化の振興	評価 責任者	猿舘 賢治	内線 3710
小施策	12-2	文化施設の整備と活用	評価 シート 作成者	柿崎 亜由美	内線 3717

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・文化会館は各施設とも建設から20年以上経過しており、設備も老朽化してきていることから、安全・快適で機能的な活動環境の提供に当たっては、適正な管理運営と計画的な施設設備の修繕や更新に努める必要がある。また、寄贈を受けた多数の市所蔵美術品の管理や有効活用を図る必要がある。		文化施設利用者へのサービス向上のため、計画的に設備の更新、修繕を実施する。また、市民の自主的・創造的な芸術文化活動が活発に行われるように、文化施設の活用を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
芸術文化施設		芸術文化活動の場として、より活用が促される。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 文化会館平均利用率	%	↗	当初値 (H25) 72		R6目標値 75
			R1目標値 74		
			・コロナ禍においても、年度の後半は利用率が増えた。		施設側、利用者側共に(公社)全国公立文化施設協会が定める「劇場、音楽堂における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づく対策を講じるほか、各文化会館にタレット型サーマルカメラを設置し、安全・安心な施設利用に向けた環境整備を行ったことも要因の一つと考えられる。
			・全ての文化会館で令和元年度の利用率を下回り、大きく落ち込んだ。(△24.4%)		・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、施設の利用の自粛やキャンセルが生じたため。
問題点 ⇒ 問題の要因分析					
			・コロナ禍においても、年度の後半は利用者数が増えた。		施設側、利用者側共に(公社)全国公立文化施設協会が定める「劇場、音楽堂における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づく対策を講じるほか、各文化会館にタレット型サーマルカメラを設置し、安全・安心な施設利用に向けた環境整備を行ったことも要因の一つと考えられる。
			・全体の利用者数が令和元年度と比較して250,208人減少した。		・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、施設の休館、施設の利用自粛や利用キャンセルが生じたため全体での利用者数が大きく減少したものの。
			・施設の経年劣化に伴い、計画的な施設修繕と舞台設備の更新が求められている。		・舞台設備、音響設備、照明設備と文化会館の設備は特殊で、かつ、多額の費用を要するが、長寿命化修繕の対象外となり起債が使えないため、一般財源の確保が困難な状況になっている。
問題点 ⇒ 問題の要因分析					

## 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づき事業に着手する。</li> <li>★ 盛岡市芸術文化推進計画に基づく効果的な事業展開について、指定管理者、芸術文化関係者等との意見交換を行い、年度別実施計画の策定について検討する。</li> <li>★ 芸術文化推進計画及び実施計画に基づき、PDCAサイクルにより目標達成に向けた事業を進めていく。</li> <li>★ 芸術文化推進計画及び実施計画に基づき、芸術文化関係団体と連携して事業を進めていく。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 芸術文化推進計画及び実施計画に基づき、計画的な修繕を実施するため、ネーミングライツや広告収入を活用した財源確保について検討を進める。</li> <li>☆1 盛岡市芸術文化振興基金を活用した計画的な修繕を実施できるよう、基金の活用について検討する。</li> </ul>	

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	白石 雄太	内線 3770
小施策	13-1	ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進	評価 シート 作成者	白根 徹	内線 3771

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民一人ひとりが、生涯にわたるスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすためには、スポーツや健康づくりに関する推進体制の充実やスポーツ指導者の発掘・養成、さらには、魅力ある企画や情報提供など、多面的な環境づくりを進める必要がある。 競技スポーツは、ジュニア期からの一貫した指導による選手の育成・強化が大切であり、指導者の確保や各種大会への参加支援のほか、競技スポーツに対する市民の関心を高め理解を深める必要がある。 学校体育やスポーツ少年団活動の充実などによる子どもたちの健全育成に努める必要がある。		すべての市民がスポーツに参画する機会が確保できるようにソフト面での充実を図り、各世代のニーズに応じてスポーツに親しみ、楽しめるスポーツ活動などを推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民		多くの市民がスポーツに参加している。
生涯スポーツに関わる団体・指導者		市民がスポーツに関わる機会を多く提供している。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 市の事業数	件	↗	当初値 (H25) 696	R1目標値 700	R6目標値 770
			<p>・平成28年度は希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催により事業数が増加した。平成29年度に国体時の事業数から減少したが、既に令和6年度目標値を上回っているとともに、令和元年度までは増加傾向にあった。</p> <p>・各競技団体や指定管理者による自主事業の取り組みにより、増加傾向にあったと思われる。</p>		
<p>・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各種事業の多くが中止となったため、実績が大きく減少した。</p> <p>・事業数は順調に伸びてきていたが、新規事業の内容が既存事業と類似または重複していないか検討する必要がある。</p>			<p>・新型コロナウイルス感染症対策としてワクチンの早期接種等が必要である。</p> <p>・事業を行う際、既存事業とのスクラップアンドビルドの検討が徹底されておらず、新規事業の拡充が重点化されている傾向があると考えられる。</p>		
指標② 事業参加者数	人	↗	当初値 (H25) 189,813	R1目標値 200,000	R6目標値 210,000
			<p>・各種スポーツ大会やスポーツ教室等に、保護者も一緒に参加できるスポーツ機会の提供や、いわて盛岡シティマラソンの開催により、参加者数が増加傾向にあった。</p> <p>・令和2年度に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、いわて盛岡シティマラソンをアプリを活用したオンライン大会とした結果、コロナ禍における新たな形のスポーツイベントとして約3,000人が参加するスポーツイベントを開催することができた。</p>		
<p>・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各種事業の多くが中止となったため、実績が大きく減少した。</p> <p>・子どもや高齢者向けのスポーツ教室や大会への参加者は多いが、働く世代の参加者が少ない傾向にある。</p>			<p>・各行事にスポーツ推進委員等を派遣したり、スポーツ教室等への共催や後援を行ったほか、令和元年度に初開催となったいわて盛岡シティマラソンを成功裏に収めた成果が大きいと考える。</p> <p>・令和2年度にいわて盛岡シティマラソンオンライン大会の開催が、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図りつつ市民の健康づくりの場の提供につながったことによる。</p>		
<p>・新型コロナウイルス感染症対策としてワクチンの早期接種等が必要である。</p> <p>・時間に制約のある働く世代が、それぞれのライフスタイルに応じて気軽にスポーツに取り組めるように、夜間や休日等の参加しやすい時間帯に事業を実施する等について検討する必要がある。</p>			<p>・新型コロナウイルス感染症対策としてワクチンの早期接種等が必要である。</p>		

## 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
<p>★ 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産を未来に継承する取組が必要であることから、市や公益財団法人盛岡市スポーツ協会、各競技団体、総合型地域スポーツクラブの実施する各種教室や大会の周知を進める必要がある。</p> <p>★ 新規事業の実施にあたり、スクラップアンドビルドの視点で検討を進めるとともに、各年齢層の健康増進や各競技種目の充実につながる事業を拡充する。</p> <p>☆1 令和3年度に策定する盛岡市スポーツ推進計画アクションプランに掲げる新規事業等について、予算が必要となる事業については令和4年度から実施することとする。</p>	
<p>★ 各教室や大会等の事業周知にあたり、スポーツに親しむ機会が少ない人が気軽にスポーツに取り組めるように、各スポーツ団体と連携を強化する必要がある。</p> <p>★ いわて盛岡シティマラソンについて、前回大会の改善点を踏まえながら、一層の参加者の増加を目指して、関係機関とともに準備を進める。</p> <p>★ コロナ禍における新たな形のスポーツイベントとして、いわて盛岡シティマラソンにおいてアプリを活用したオンライン大会も同時開催することとする。</p> <p>☆1 健康づくりに関するアプリの使用によるコロナ禍における新たな健康づくり施策を検討する必要がある。</p>	

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	白石 雄太	内線 3770
小施策	13-2	スポーツ施設の整備充実	評価 シート 作成者	白根 徹	内線 3771

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民がスポーツを継続するためには、スポーツ施設を適正に配置するほか、効果的・効率的運営と施設の充実を図る必要がある。	市民ニーズに対応した新たな施設の整備や老朽化やユニバーサルデザインに対応する改修など、アセットマネジメントの考え方を踏まえながら、適切なスポーツ施設の配置及び整備・改修を行う。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民 スポーツ・レクリエーション施設	場(施設)が提供される。 適切に配置され、充実した機能を備えている。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 施設利用者	人	↗			
当初値 (H25)	970,673	R1目標値	1,120,000	R6目標値	1,270,000
<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により施設利用者は大きく減少したが、一部利用休止期間を除き、感染症対策を実施しながら営業を継続したことにより、市民がスポーツをする機会を継続して提供することができた。</p>			<p>・各スポーツ施設に対しガイドラインに沿った換気や消毒の実施等を指示したほか、一部施設にはサーマルカメラの配備等を行うなどの感染症対策を行ったことにより、施設利用を要因とした新型コロナウイルス感染症が発生しなかったことによる。</p>		
問題点			問題の要因分析		
<p>・施設修繕や競技用具の不具合により施設の利用が一部制限される場合がある。</p>			<p>・アセット計画等に基づく修繕等は実施しているが、老朽化に伴う突発的な修繕や備品更新が発生しており、それらに対する十分な費用が確保できていない。</p>		
指標②					
当初値 (H25)		R1目標値		R6目標値	
問題点			問題の要因分析		

## 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 施設利用者向上につながる自主事業の拡大を指定管理者に要請する。</li> <li>★ 公共施設保有最適化・長寿命化計画を着実に推進する。</li> <li>★ 施設の維持管理に係る費用の確保を検討する。</li> <li>★ 施設の価値向上に寄与する施設の整備や備品の購入等により、県外を含めた利用者の増加に繋げる。</li> <li>☆1 今後、新たに整備を行う施設の早期供用開始に努め、施設利用を推進する。</li> </ul>	

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	白石 雄太	内線 3770
小施策	13-3	スポーツ団体等との連携強化	評価 シート 作成者	白根 徹	内線 3771

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
スポーツ大会などの企画運営や競技力向上のためには、指導にあたる組織や人材が必要となるため、スポーツを支えるための組織・人材などとの連携を強化する必要がある。		市民へのスポーツの普及・定着化と競技力の向上を目指すため、広域市町、関係機関・団体などとの連携を強化する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
スポーツ団体等		団体の役割を明確にし、市民のスポーツ活動が活発に展開される環境を作る。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 市が共催・後援する事業の数	事業	↗	当初値 (H25) 193	R1目標値 240	R6目標値 290
			<p>・公益財団法人盛岡市スポーツ協会、各競技団体、総合型地域スポーツクラブ等の共催・後援事業数について、新型コロナウイルス感染症拡大により、スポーツイベントの減少により、共催・後援事業数も大きく減少した。</p> <p>・市有施設の施設整備を進めることにより、スポーツをする環境を整備することができたが、令和2年度における新型コロナウイルス感染症による事業中止等の影響で微減したと想定される。</p>		
問題点			問題の要因分析		
<p>・、新型コロナウイルス感染症拡大により、スポーツイベントの多くが中止となった。</p> <p>・各競技団体や総合型地域スポーツクラブの活動を支援する必要がある。</p>			<p>・新型コロナウイルス感染症対策としてワクチンの早期接種等が必要。</p> <p>・競技団体や総合型地域スポーツクラブの活動に携わるスタッフが高齢化、固定化している。</p>		
指標② 総合型地域スポーツクラブの数	団体	↗	当初値 (H25) 5	R1目標値 12	R6目標値 24
			<p>・総合型地域スポーツクラブの事業運営が安定的に行われている。</p> <p>・開催する教室や大会について、市の共催により活動場所の利用料軽減等を行ったことが安定的な事業運営につながったと考えられる。</p>		
問題点			問題の要因分析		
<p>・市民のスポーツ活動機会の拡大に向けた支援を行う総合型地域スポーツクラブの創設が進んでいない。</p>			<p>・総合型地域スポーツクラブの創設には時間を要する。</p> <p>・総合型地域スポーツクラブの創設に係るノウハウを持っている人材が少ない。</p>		

## 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
<p>★ 盛岡市スポーツ協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブが各教室や大会を開催しやすいようにするため、連携を強化し、情報提供を行っていく。</p>	
<p>★ 地域活性化が図られるよう、総合型地域スポーツクラブの活動状況について継続して周知を行っていくとともに、人材確保に努める。</p>	
<p>★ 総合型地域スポーツクラブの創設を目指す団体に対し、スポーツ振興助成金を活用した『盛岡市総合型地域スポーツクラブ創設支援事業費補助金』制度を制定し、創設支援を行うこととした。</p>	

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	白石 雄太	内線 3770
小施策	13-4	プロスポーツ等との連携	評価 シート 作成者	白根 徹	内線 3771

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
本市をホームタウンとするプロスポーツのチームの活躍は、まちの活性化、スポーツ人口の拡大など、さまざまな効果が期待できるため、市民の関心を高めるさまざまな施策を講じる必要がある。		市民のスポーツへの関心を高めるとともに、スポーツを通じた地域活性化を目指して、プロやプロを目指すチームとの連携を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民 プロスポーツ団体等		スポーツへの関心が高まる。 優勝するなど、市民のスポーツへの関心が高まるような成績を残す。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① プロチーム等のチーム会員数	人	↗	当初値 (H25) 2,177	R1目標値 14,000	R6目標値 24,000
			<p>・プロスポーツチームが自立した運営を行うことができるよう支援した。</p> <p>・試合会場や練習施設の優先利用や、施設使用料の軽減を行ったこと。</p>		
<p>・会員数が昨年度より26%減少した。</p>			<p>・近年の成績の伸び悩みに加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、例年どおりの試合実施が危ぶまれたことによる応援意欲の低迷や加入見合わせがあったと推定される。</p>		
指標② プロチームが市事業を受託した件数	件	↗	当初値 (H25)	R1目標値 0	R6目標値 4
			<p>・岩手ビッグブルズ及びいわてグルージャ盛岡に対し、ホームゲームの観戦者に盛岡市の特産品を贈呈する業務委託を発注し、市内製造業等の経済活動の活性化を図るとともに、市民がプロスポーツに触れる機会の促進を図った。</p> <p>・コロナ禍において、市内の特産品製造業者等及び業務を受託したプロスポーツチームの経済支援となった。</p>		
<p>・令和2年度は、岩手県新型コロナウイルス感染症対策市町村総合支援事業費補助金を活用して実施したものであり、これまで一般財源を使って実施した事業はない。</p>			<p>・今後の事業内容、委託方法及び財源について、プロスポーツ団体の特徴を生かし、補助金等がなくても継続可能な事業を検討する必要がある。</p>		

## 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 練習環境の確保・支援。</li> <li>★ ホームゲームの開催支援。</li> <li>★ 広報活動による支援。</li> </ul>	
<p>☆1 プロスポーツ団体だからこそ実施可能な市のスポーツ推進事業を企画する。</p>	

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

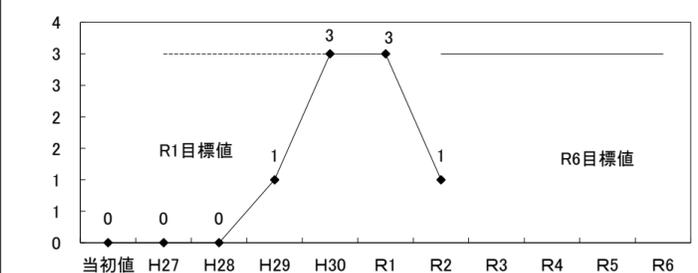
基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	白石 雄太	内線 3770
小施策	13-5	希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産の継承	評価 シート 作成者	坂本 淳	内線 3774

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産(レガシー)を未来に引継ぎ、ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピック開催の機会を捉え、事前キャンプ受け入れなどのホストタウン事業に取り組んでいく必要がある。	スポーツによる交流人口の拡大、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組、広域的な地域スポーツの推進に取り組み、「希望郷いわて国体」「希望郷いわて大会」によりもたらされた有形・無形の様々な遺産(レガシー)を確実に未来に引き継ぐ。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民 県内外のスポーツ競技団体	スポーツへの興味、関心を持ち、「する」「見る」「支える」形で参加する。 スポーツツーリズムとして本市に興味を持ち、国際大会、全国大会を開催する。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 事前合宿・全国大会受け入れ数		単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析
当初値 (H25)	R1目標値	種目	→	問 題 点	問題の要因分析
0	3			・新型コロナウイルス対策を実施したうえで開催する初の全国大会として、リードジャパンカップを無観客で開催した。	・新型コロナウイルスにより、ほとんどの全国規模の大会が中止となる中、万全な感染症対策を実施した上での大会開催モデルを示すことができ、その後の大会の試金石となった。
0	3			・新型コロナウイルスにより県外の往来が憚られる中、事前合宿・全国大会の機運醸成を図る必要がある。	・新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大したため。
0	3			・新たな大規模大会の誘致や全日本レベルの合宿誘致に向けて、大会規模に応じた選手、役員の宿泊費用等の一部助成や、施設使用料の減免などの助成制度が必要である。	・大会合宿誘致の主なターゲットである首都圏の主催者にとって、移動費や宿泊費等の負担が大きい。



## 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
<p>★国際大会や全国大会など、大規模大会の誘致は、高規格な施設のPRとともに交流人口の増加につながる。</p> <p>★大会や合宿誘致で選ばれる都市となるよう現行のMICE制度より有利な助成制度の導入の検討を進める。</p>	

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市戦略室	
施策	14	「盛岡ブランド」の展開	評価 責任者	中嶋 孝樹	内線 3867
小施策	14-1	市民・事業者との意識共有	評価 シート 作成者	清水 友博	内線 3868

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
盛岡らしい有形・無形の価値や魅力を「盛岡ブランド」として整理・体系化し、発信してきたが、市民や事業者への浸透が十分ではなく、盛岡ブランドをよく理解してもらう必要がある。		市民や事業者に盛岡ブランドをよく理解してもらい、意識共有を図るための取組を充実・強化することにより、市民一人ひとりが盛岡に対する誇りや愛着を抱くシビックプライドの醸成を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民 市民以外の人		盛岡への誇りや愛着を抱いてもらう。 盛岡を知り、興味・関心を持ち、好きになってもらう。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合	%	↗	当初値 (H25) 78 R1目標値 80 R6目標値 80	⇒	・ブランドフォーラムの参加者数が増加したことから、より多くの市民への普及啓発を行うことができた。 ・小学校の総合学習で盛岡ブランドを周知する機会が増加し、子どもたちの郷土愛の醸成を図ることができた。 ・情報発信に興味を持つ市民向けの動画制作セミナーや高校生と連携したインターネットラジオの制作により、盛岡の魅力の再確認と情報発信ができた。
			問題点	⇒	問題の要因分析
78 77.7 78.5 76.9 81.4 79.2 78.6 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6			・まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合が下降した。 ・市民企画への助成ができなかった。	⇒	・取組の成果が指標の上昇に結び付かなかった。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、市民によるイベント等の活動が活発に行われず、助成金を活用しようとする団体がいなかった。
指標②	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
当初値 (H25)			R1目標値	⇒	R6目標値
			問題点	⇒	問題の要因分析

## 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
★ 新たに策定した「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき、市内住民に向けたインナープロモーションを行うための手法の検討・構築を行う。 ★ 子どもたちに向けた郷土愛の醸成を図るため、小学校との連携を継続的に行えるよう、関係の構築に努める。 ★ 盛岡ブランドフォーラムの実施時期や内容、周知方法を見直し、より集客できるよう努める。 ☆1 「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき検討したプロモーションを実践する。	

## 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

### 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市戦略室	
施策	14	「盛岡ブランド」の展開	評価 責任者	中嶋 孝樹	内線 3867
小施策	14-2	情報発信の強化	評価 シート 作成者	阿部 牧子	内線 3869

### 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
盛岡市の認知度は、民間シンクタンクの調査によると、決して高くはなく、首都圏や関西以西において認知度を向上させる余地があることから、特産品やイベントなどの魅力を生かしながら、全国に向けて情報発信を効果的に行う必要がある。		発信に当たっては、シティプロモーションの視点から、ソーシャルメディア等の新たな広報・情報媒体の積極的な活用を図るほか、転出者や首都圏等に在住する盛岡出身者等、盛岡に関わりがある人をキーパーソンとする、人と人との繋がりによる盛岡の魅力の発信に取り組む。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民 市民以外の人		盛岡への誇りや愛着を抱いてもらう。 盛岡を知り、興味・関心を持ち、好きになってもらう。

### 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価		
				成果点	⇒	成果の要因分析
指標①	地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」	単 位	目指す方向			
		位	↗			
当初値 (H25)	58	R1目標値	50	R6目標値 50		
<p>・市内の様々なプロモーションにおいてマーケティングや戦略的な情報発信を取り入れることが出来るよう、セミナーや情報交換を行い連携を図ることで、市内の情報発信力の向上を図ることが出来た。</p> <p>・ふるさと納税のデジタルプロモーション及び効果測定を実施し、寄付者数の増加に貢献できた。</p> <p>・関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業として「盛岡という星で」プロジェクトによる、情報発信や首都圏における盛岡コミュニティ形成を行うことができた。</p>				<p>・各事業担当者と講師との情報交換を個別に行うことで、事業の課題等を共有し、横の連携を図ることが出来た。</p> <p>・それぞれの活動に対し、訴求する相手方(ターゲット)を設定したことで、効果的な訴求につながった。</p>		
問題点				⇒ 問題の要因分析		
<p>・情報発信を効果的に行うためのマーケティング研修や情報交換が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、想定回数実施できなかったほか、対面での実施が出来なかった。</p>				<p>・新型コロナウイルスの影響を予見したスケジュールの設定を行えなかった。</p>		
指標②	観光客入込数	単 位	目指す方向			
		万人回	↗			
当初値 (H25)	472	R1目標値	500	R6目標値 520		
<p>・情報発信に興味を持つ市民向けの動画制作セミナーや高校生と連携したインターネットラジオの制作により、若者の視点による盛岡の魅力の再確認と情報発信ができた。</p> <p>・移住相談体制の拡充や、「盛岡という星で」プロジェクトの一環として、盛岡の暮らし体験ツアーを実施することで、市への来訪のきっかけ作りを行うことができた。</p> <p>・北上川において、かつて盛んだった舟運の実現に向けて木造舟「もりおか丸」等の運航実験(2回)や新たに国土交通省が整備する船着場の現地調査を実施し、安全・安心な舟の運航に向けた取り組みが出来た。</p>				<p>・盛岡第一高等学校が事業趣旨に賛同し、放送委員会の協力を得ることができた。</p> <p>・それぞれの活動に対し、訴求する相手方(ターゲット)を設定したことで、効果的な訴求につながった。</p> <p>・民間事業者などと連携し、ターゲットを明確にしたプロモーションの方向性を構築したうえで事業を実施した。</p> <p>・地元団体、国土交通省、市が構成団体となった舟運実行委員会により舟運実現に向けた組織強化が図られ、コロナ禍ではあったが運航実験を2回開催できたことによる。</p>		
問題点				⇒ 問題の要因分析		
<p>・高校生との情報発信について、継続的な番組制作に繋がらなかった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、メインターゲットである東京圏からの来訪者数を増やすことが出来なかった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響のため、舟運イベント「北上川フェスタ INMORIOKA」を中止したことから、コロナ禍における運航体験やイベントの開催に向けた対策が必要である。</p> <p>・船着場が無いため、運航するたびにレンタルで仮棧橋等を準備する必要がある。</p>				<p>・学校行事等の活動と両立させる体制を整えることが出来なかった。</p> <p>・オンラインの活用等を図ったものの、県外への移動が制限された影響を受けた。</p> <p>・盛岡市新型コロナウイルス感染症対策本部等の指導の下、感染防止対策を講じた運航体験や舟運イベントの開催を検討が必要である。</p> <p>・船着場の整備が必要である。</p>		

### 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
★ 「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき、市外住民に向けた効果的なプロモーションを行うためにマーケティング及び戦略的プロモーションの市内への定着を図る。	
★ 訴求する相手方(ターゲット)の設定や、ターゲットに適した情報発信手法など、マーケティング手法を用いながら効果的なプロモーションを実施する。	
★ 新型コロナウイルスの影響による地方への移住ニーズの高まりに対応するため、移住定住・交流人口対策事務局を設置し、部局横断的な移住等支援体制の強化を図る。	
★ 関係人口が盛岡での具体的な取組にかかわるための機会を創出する。	
★ 地元の高校生や大学生が地域課題を知る機会などを提供する。	
★ 中心市街地に関係人口交流拠点「盛岡という星で BASE STATION」を整備し、官民連携により上記の取組を推進する。	
★ 「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき、市外住民に向けた効果的なプロモーションを行うためにマーケティング及び戦略的プロモーションの市内への定着を図る。	
★ 訴求する相手方(ターゲット)の設定や、ターゲットに適した情報発信手法など、マーケティング手法を用いながら効果的なプロモーションを実施する。	
★ オンラインなどを活用しながら、東京圏の移住希望者と交流を図りながら、アフターコロナを見据え、関係人口交流拠点を活用した受け入れ態勢を整える。	
★ 令和2年度に国土交通省が整備した船着場を活用し、北上川に隣接する木伏緑地を含む河川空間や大慈寺・鉈屋町地区と連携した舟運イベントや運航体験を開催し、まちなか観光の推進と中心市街地の活性化を図るとともに、盛岡の新たな魅力を発信する。	
☆1 「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき市外に向けたプロモーションの効果を高めるため、マーケティング手法を取り入れ、全庁的な視点で連携した情報発信を実践する。	
☆2 安全・安心で持続可能な舟の運航ができるよう、河川管理者や地元団体と協力し、河川水位の確保や河川内の支障構造物の改良、運営事業者の体制強化を図る。	

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	景観政策課
施策	15	良好な景観の形成	評価 責任者	加藤 英樹 内線 7290
小施策	15-1	景観保存対策の充実	評価 シート 作成者	角館 裕行 内線 7295

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・盛岡らしい都市景観形成の実現のため、各地域の景観特性が生かされた景観形成を図る必要がある。 ・盛岡固有の佇まいを残す盛岡町家などの歴史的景観を保全・継承する必要がある。 ・優れた自然環境と歴史的環境とが調和する個性豊かな都市環境を次世代に継承していく必要がある。	景観計画に基づき、地域の特徴を生かした景観形成促進地区などの指定を行うとともに、優れた景観や建造物などの保全・活用について、市民との協働による取組を進め、景観に配慮した快適で美しく活気ある街並み形成を進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
街並み、山並み 市民・建築関係者	優れた景観が守られる。 景観に対する意識が高まる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和3年度以降)
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	評価を踏まえた取組の方向性	
指標① まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↗	当初値 (H25) 70 R1目標値 75 R6目標値 79	・まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合が当初値より増加している。 ・景観重要建造物に係る維持保全の必要性について、市民等の意識を高めた。 ・市街地の豊かな歴史的環境が維持・保全された。	・市所有の景観重要建造物を公開することにより、広く市民等に景観重要建造物を観覧する機会を設けた。 ・民間所有の景観重要建造物の改修支援制度を継続するとともに、市所有の景観重要建造物の修繕等を行ったことが、景観重要建造物の健全な維持管理保全につながった。 ・景観重要樹木の樹勢診断を行い、樹木の状態の把握することにより、良好な維持管理保全につながった。	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討  ★景観重要建造物の公開により景観意識の向上を図る。 ★景観重要建造物等の改修事業に係る財源の拡充のため、国の補助制度の活用を図る。 ★景観重要建造物等の改修補助や歴史的町並み修景補助の制度等の周知を図る。 ★景観重要建造物、景観重要樹木等の維持保全を図る。
			問題点	問題の要因分析		
			・景観重要建造物が老朽化していることから、計画的に改修を行う必要がある。	・所有者の高齢化により維持管理が困難になっており、また、維持管理や改修費用に多額の負担が伴うこと。		
指標② まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園・丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↗	当初値 (H25) 60 R1目標値 69 R6目標値 79	・良好な景観が維持・保全された。	・景観重要樹木の樹勢診断を行い、樹木の状態の把握することにより、良好な維持管理保全につながった。	★景観要素である景観重要樹木の維持保全を図る。 ★小施策15-2「良好な景観形成の誘導」の事業と連携し、都市景観シンポジウム等で良好な景観の周知や各種補助事業の周知を図る。
			問題点	問題の要因分析		
			・まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園・丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合が当初値より減少している。 ・田園・丘陵地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であり、新たな景観要素の増加を見込むことは困難である。	・田園・丘陵地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であり、新たな景観要素の増加を見込むことは困難である。		
指標③ まちづくり評価アンケート調査「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↗	当初値 (H25) 70 R1目標値 75 R6目標値 79	・良好な景観が維持・保全された。	・景観重要樹木の樹勢診断を行い、樹木の状態の把握することにより、良好な維持管理保全につながった。	★景観要素である景観重要樹木の維持保全を図る。 ★小施策15-2「良好な景観形成の誘導」の事業と連携し、都市景観シンポジウム等で良好な景観の周知や各種補助事業の周知を図る。
			問題点	問題の要因分析		
			・まちづくり評価アンケート調査「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民の割合が当初値より減少している。 ・山地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であり、新たな景観要素の増加を見込むことは困難である。	・山間地は新たな建造物等を建設することが抑制される地域であり、新たな景観要素の増加を見込むことは困難であることから、現行の行為届出に係る基準を維持するとともに、景観重要樹木などの景観要素の維持保全を積極的に図る。		

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	景観政策課	
施策	15	良好な景観の形成	評価 責任者	加藤 英樹	内線 7290
小施策	15-2	良好な景観形成の誘導	評価 シート 作成者	角館 裕行	内線 7295

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・景観計画の目標を実現するために、景観計画の内容や景観法に基づく届出制度等について、引き続き、広く市民や事業者等に周知していくほか、景観に関する意識の高揚を図る必要がある。 ・景観への影響が大きい屋外広告物の適正化のために、許可制度などの周知・啓発を推進する必要がある。		これまで取り組んでいた景観施策の実績を踏まえ、次世代に継承できる「美しいまち盛岡」を実現するため、更なる景観施策の充実と向上を図り、良好な景観の形成を推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
街並み、山並み 市民・建築関係者		地域にあった景観になる。 地域の景観に沿った建物等を建設する。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示・設置されているはり紙や看板などは、景観に配慮されていると思う)」と答えた市民の割合	%	↗	・無許可の屋外広告物について許可申請を促すことにより、適正な屋外広告物となった。 ・市民等の屋外広告物制度に関する認知度が向上した。	⇒	・屋外広告物の適正化に係る行動計画を策定し、重点事項を中心に指導を行うことにより、無許可広告物の減少に努めたことが許可申請の提出につながった。
当初値 (H25) 28.1					
R1目標値 31.1					
R6目標値 33.6					
問題点			・申請等を伴わない放置された違反広告物が依然として市内各所に存在している。 ・まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示・設置されているはり紙や看板などは、景観に配慮されていると思う)」と答えた市民の割合が当初から概ね横ばいの傾向にある。	⇒	・市において、違反広告物の所有者及び占有者に対し、指導等を行い、また、屋外広告物の制度について周知等をしているが、いまだ認識が浅い状況にある。
まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の景観について、改善したい景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↘	・市民等に都市景観に関する意識の向上につながった。	⇒	・都市景観シンポジウムを開催し、都市景観賞の表彰を行った。
当初値 (H25) 20.6					
R1目標値 17.4					
R6目標値 14.8					
問題点			・まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の景観について、改善したい景観があると思う」と答えた市民の割合が増加している。	⇒	・景観に対し、配慮が欠ける建設や建築物等の維持管理・開発が行われている。

## 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手済または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>★屋外広告物の制度に関する周知・啓発及び適正化に係る行動計画を策定し、重点指導事項を中心に、効率的に取り組む。</li> <li>★官民が連携する啓発イベントを継続して行い、屋外広告物制度について周知を図る。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>★都市景観シンポジウム等で良好な景観の周知や各種補助事業の周知を図る。</li> <li>★都市景観シンポジウムのテーマを市民がもっと興味を持つ内容になるよう検討する。</li> <li>★都市景観賞受賞作品写真パネル展の開催場所の追加検討を行う。</li> </ul>	

# 【小施策評価(令和2年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市計画課	
施策	16	計画的な土地利用の推進	評価 責任者	滝村 敏道	内線 7210
小施策	16-1	土地利用に関する計画の策定・見直し	評価 シート 作成者	齋藤 剛	内線 7211

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)		取組の方向性(総合計画実施計画から転記)	
・持続可能な土地利用を推進するため、国土利用計画盛岡市計画を踏まえ、総合的で計画的な市土の利用を継続する必要がある。 ・都市計画(土地利用、道路・公園、下水道、市街地開発事業等)については、都市計画マスタープランに即して、諸施策を総合的かつ体系的に展開していく必要がある。 ・無秩序な市街地の拡大を防ぎ、計画的なまちづくりを進める必要があるため、区域区分及び地域地区の見直しに取り組んでいく必要がある。		藩政時代から形成された既成市街地の充実と新市街地の形成による機能的で活力あるコンパクトなまちづくりを推進するとともに、これら市街地を取り囲む農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう、総合的で計画的な土地利用を進める。	
対象(誰(何)を対象として行うのか)		意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)	
都市計画区域、農用地区域、森林区域		計画的に土地利用される。 市街化区域についてはコンパクトなまちが形成される。	

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価		
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点	問題の要因分析
都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要がある区域を指定する割合 (市域における都市計画区域の割合)	%	→	50.3	・関連する上位計画や制度等の適切な運用が図られている。 ・関係施策や計画における相互連携による調整が図られている。 ・県内では唯一、市街化区域及び市街化調整区域の区域区分が定められている。	・将来における生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持が困難になる。	・人口減少、少子化及び高齢化の進展、社会資本の老朽化等が進行している。
当初値 (H25)	50	R1目標値	50	R6目標値 50		
農用地として保全し土地利用する割合 (市域における農用地区域の割合)	%	→	8.4	・関連する上位計画や制度等の適切な運用が図られている。 ・関係施策や計画における相互連携による調整が図られている。 ・県内では唯一、市街化区域及び市街化調整区域の区域区分が定められている。	・将来における農村部の生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持が困難になる。	・人口減少、少子化及び高齢化の進展、社会資本の老朽化が進行し、農業の担い手不足等が顕在化している。
当初値 (H25)	8.4	R1目標値	8.4	R6目標値 8.4		
森林として保全し土地利用する割合 (市域における森林区域の割合)	%	→	73.2	・関連する上位計画や制度等の適切な運用が図られている。 ・関係施策や計画における相互連携による調整が図られている。 ・県内では唯一、市街化区域及び市街化調整区域の区域区分が定められている。	・将来における森林資源の保全維持管理を図る必要がある。	・人口減少、少子化及び高齢化の進展等により、社会情勢が変化している。
当初値 (H25)	73	R1目標値	73	R6目標値 73		

## 今後の方向性(令和3年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R3年度着手または着手予定 ☆…R4年度以降の着手を検討
★ 近年の社会情勢の変化や各種関連計画の策定等を踏まえ、都市計画の方針を定めている盛岡市都市計画マスタープランの全体構想・地域別構想の見直しのほか、都市再生特別措置法の改正を踏まえた盛岡市立地適正化計画の見直しを進める。	☆1 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として保全・活用するため、市街地の集約化と相乗効果が得られるように、総合的で一体的に土地利用を進める。
★ 市街化調整区域における集落維持と土地利用の適正化を図るために市街化調整区域における地区計画の運用方針の策定を進める。	☆1 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として保全・活用するため、市街地の集約化と相乗効果が得られるように、総合的で一体的に土地利用を進める。
★ 市街化調整区域における集落維持と土地利用の適正化を図るために市街化調整区域における地区計画の運用方針の策定を進める。	☆1 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として保全・活用するため、市街地の集約化と相乗効果が得られるように、総合的で一体的に土地利用を進める。

【小施策評価(令和2年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市計画課	
施策	16	計画的な土地利用の推進	評価 責任者	滝村 敏道	内線 7210
小施策	16-2	土地利用の管理・指導	評価 シート 作成者	齋藤 剛	内線 7211

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市街化区域内の未利用地の土地利用を進めるとともに、市街化調整区域における既存集落のコミュニティの維持や地域の活性化を図る必要がある。	良好な宅地水準を確保するとともに、都市計画に定める土地利用目的に沿った開発行為が行われ、立地の適正性が確保されるように、管理・指導する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
都市計画区域、農用地区域、森林区域	計画的に土地利用される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和3年度以降)
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	評価を踏まえた取組の方向性	
指標① 都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要のある区域を指定する割合(市域における都市計画区域の割合)	%	→	当初値(H25) 50   R1目標値 50   R6目標値 50	<p>成果点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られている。</li> </ul> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発許可及び建築許可の件数が増えている。</li> <li>審査基準の緩和に関する相談への対応に時間を要している。</li> </ul>	<p>成果の要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発行為及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において、十分な指導を行っている。</li> </ul> <p>問題の要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。</li> <li>相談件数及び相談時間の予測が困難な状況になっている。</li> </ul>	<p>評価を踏まえた取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★…R3年度着手または着手予定</li> <li>☆…R4年度以降の着手を検討</li> </ul> <p>★☆1 開発・建築相談の窓口対応は、より一層の効率化を図るため、予約制を推進するとともに、説明資料等の工夫を検討する。</p> <p>★☆2 市街化調整区域における開発許可基準の運用や見直しは、国の動向、他都市の事例、岩手県との協議等を参考にしながら、地域の実情に応じて、継続して検討を進める。</p>
当初値(H25) 50	R1目標値 50	R6目標値 50				
指標② 農用地として保全し土地利用する割合(市域における農用地区域の割合)	%	→	当初値(H25) 8   R1目標値 8   R6目標値 8	<p>成果点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られている。</li> </ul> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発許可及び建築許可の件数が増えている。</li> <li>審査基準の緩和に関する相談への対応に時間を要している。</li> </ul>	<p>成果の要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発行為及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において、十分な指導を行っている。</li> </ul> <p>問題の要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。</li> <li>相談件数及び相談時間の予測が困難な状況になっている。</li> </ul>	
当初値(H25) 8	R1目標値 8	R6目標値 8				
指標③ 森林として保全し土地利用する割合(市域における森林区域の割合)	%	→	当初値(H25) 73   R1目標値 73   R6目標値 73	<p>成果点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られている。</li> </ul> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発許可及び建築許可の件数が増えている。</li> <li>審査基準の緩和に関する相談への対応に時間を要している。</li> </ul>	<p>成果の要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発行為及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において、十分な指導を行っている。</li> </ul> <p>問題の要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。</li> <li>相談件数及び相談時間の予測が困難な状況になっている。</li> </ul>	
当初値(H25) 73	R1目標値 73	R6目標値 73				
指標④ 市街化区域における土地利用促進割合(未利用地に対する開発許可面積の割合)	%	↗	当初値(H25) 2   R1目標値 3   R6目標値 4	<p>成果点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市街化区域内の適正な土地利用が図られている。</li> </ul> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発許可及び建築許可の件数が増えている。</li> <li>審査基準の緩和に関する相談への対応に時間を要している。</li> </ul>	<p>成果の要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発行為及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において、十分な指導を行っている。</li> </ul> <p>問題の要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。</li> <li>相談件数及び相談時間の予測が困難な状況になっている。</li> </ul>	
当初値(H25) 2	R1目標値 3	R6目標値 4				